

しもつがの「まなびの WA！」

令和8年9月30日

「WA！」には、輪、和、話、環などの意味合いを含め、管内の学校や教職員のつながり、温かい交流、情報交換の広がりなどをイメージしています。

発行：栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所

特別第9号

横川 指導主事のお薦めする本・映画

① 「ボトムアップ理論」 畑喜美夫著 ザメディアジョン



『ボトムアップ理論』は、選手や部下が自ら考え、行動する「自立型組織」を育てるための指導法を紹介した一冊です。従来のトップダウン型の指示命令ではなく、現場の声を尊重し、全員がリーダーとしての意識を持つことを重視することがより組織力の向上につながります。

基本行動として「あいさつ・返事・整理整頓（3S）」を徹底し、信頼関係や質の高いトレーニングを通じて人間力を育てることを目的としています。また、目的（ミッション）と目標（ビジョン）を明確に区別し、「勝つこと」よりも「人として成長すること」を最優先事項としています。

ボトムアップ理論は、スポーツ指導にとどまらず、教育現場や企業の組織づくりにも応用されており、全員が主体的に関わることで、組織全体の活性化と持続的な成長を目指しているのです。学級作りにおいても重要な視点と言えます。まさに「全員リーダー制」を通じて、一人ひとりの可能性を引き出す実践的な理論です。

活字本だけでなくマンガにもなっています。皆様もぜひ読んでみてください。

② 「伸ばしたいなら離れなさい」 サッカーで考える子どもに育てる 11の魔法 池上正 著 小学館

『伸ばしたいなら離れなさい』は、子どもの「考える力」を育てるために、大人が“あえて離れる”ことの大切さを説いた一冊です。サッカー指導の現場で50万人以上の子どもたちと向き合ってきた著者が11の“魔法の習慣”を通して、子どもが自ら考え、行動する力を引き出す方法を紹介しています。

例えば、「失敗させる」「答えを持たない」「選ばせる」など、親や指導者が手を出しすぎず、見守る姿勢を持つことが大切であることに改めて気付かされる1冊です。スポーツだけでなく、子育てや教育全般に応用できる内容です。ぜひご一読ください。



③ 映画「ゴーストバスターズ」 アイヴァン・ライトマン監督 コロンビアピクチャーズ

テレビで再放送されるたびに必ず見てしまうほど好きです。何も難しいことを考えず、熱中して見るもよし。何かをしながら適度に見るもよし。あの音楽、キャラクターが爽快な気分させてくれること間違いなしです。すでに見たことがある方もまだ見たことがない方もぜひご視聴してみてください。

下都賀教育事務所 HP には
バックナンバーを掲載して
います。



庄司 インクルーシブ教育エリアコーディネーターのお薦めする本・映画

① 「だから毎日、幼稚園に通えた」 東田直樹 世界文化社



13歳で作家デビューを果たし、世界的なベストセラー作家である東田直樹さんが、幼稚園時代何を感じ、どんな園生活を過ごしてきたかが書いてある本です。「先生たちは、少しでも僕ができればほめてくれました。だから毎日幼稚園に通っていたのだと思います。」と東田さんが言っているとおり、幼稚園時代の先生とのあたたかな関わりが、幼児を成長させています。

幼稚園・保育所の保育では、関わり手の「省察」の大切さが指摘されています。子どもの思いを読み取りながら関わることは、どの学校段階でも大切です。

最後に「お悩み相談室」のコーナーもあり、保育者の悩みを東田さんが答えてくださっています。

② 「発達と障害を考える本 12 発達って、障害ってなんだろう？」 日原信彦(監) ミネルヴァ書房

豊富なイラスト、図表をもとに、「発達とは」「障害とは」何かをわかりやすく記している本です。そのため小学校段階以降の子どもにも読みやすく、ぜひ学校図書館に1冊置いておいてほしい本です。

障害者権利条約の締結、障害者差別解消法や発達障害者支援法などの法整備がなされ、障害者に対する偏見や差別は以前より減りつつありますが、障害のある子どもの学びについての各学校の工夫や取り組みについては、まだまだ途上にあります。先生方にはこの本をぜひ手に取っていただき、多くの先生同士で読み合っていただけるとありがたいです。



③ 「大人も知らない みのまわりの謎大全」 ネルノダイスキ 著 ダイヤモンド社



「住宅街の謎」「商店街の謎」「河原の謎」「駅前の謎」といった身の回りの謎について、漫画を読んでいるようにわかりやすく解説しています

「異星人連れ去り注意の看板」「住宅街に出現した超巨大ヘビ」「酒屋に巨大ハチの巣」など、見出しを見ただけでも「何のことだろう」と謎が深まります。高層ビルの建築では、ビルの骨組みの上にクレーンが載っています。いったいどうやって、あの高いところにクレーンを載せたのかわかりますか？この本を読めば一発でわかります。楽しいコミュニケーションがこの本で広がります。

④ 「学力喪失—認知科学による回復への道筋」 今井むつみ 岩波新書

慶応義塾大学今井教授のベストセラー。「なぜわからない」がわかる本。誤った子どもの物事のとらえ(スキーマ)が「死んだ知識」を生み出してしまっている現状、誤ったスキーマでいくら問題を解かせてもスキーマの修正はできないとの指摘がなされています。例えば算数では「+」「-」「×」「÷」の意味がしっかりとらえられているか、といった問題提起がなされています。

「知能テストは学校での躓きの診断を目的に作られたのではない」という今井教授の警鐘ともいえる一文を、学校の先生方はしっかりと受け止めてほしいと思います。



⑤ 映画「APOLLO13」 ロン・ハワード監督 ソニー・ピクチャーズ エンターテインメント

トム・ハンクス主演の不朽の名作。月に向かうロケットの突然の爆発。3人の宇宙飛行士が直面する数々の困難を、地上にいるスタッフとともに乗り越え生還するまでを描いています。

サターンロケットの打ち上げシーンは迫力があり何度でも見てしまいます。大気圏突入後、パラシュートが開き着水するシーンも何回見ても感動します。「どんな困難にも解決のためのリソースは必ずある。力を合わせ見つけ、生かしていくことが大切」というメッセージを感じます。

「成功した失敗」とはまさにこのこと。月に降りられなくても、困難を乗り越え命を救うスタッフの姿にこそ、「成功」が現れています。